

2020年6月の望遠鏡観測の結果を(表-1)に示します。今月は、寺迫氏から観測報告がありました。

観測者 Observer	観測地 Locality	夜数 Night	時間 Time	流星数 Meteor			備考 Remarks
				Plot	S' n	Total	
寺迫 正典 (Terasako Masanori)	静岡県浜松市北区 (Hamamatsu shizuoka-pref)	3	120	0	47	47	10cm×28 2.5° Bino
2020年6月計		3	120	0	47	47	HR 23.5

(表-1) 2020年6月望遠鏡観測結果

Table 1 Summary of the Telescopic Meteor observations in June,2020

● 出現数変化

2020年6月の出現数変化を(表-2)に紹介します。

UT																													
日	開始	JST	終了	JST	分	中央時	観測方向 (Direction)	Plot	Seen	Total	HR	Mag	See	CI						観測者 (Observer)									
15	26	25	26	55	30	15.736	North-Pole	-	12	12	24.0	12	vG								10cm Bino. *28	寺迫(Terasako M)							
26	27	3	27	33	30	26.763	North-Pole	-	13	13	26.0	11.0	M								10cm Bino. *28	寺迫(Terasako M)							
28	25	45	26	45	60	28.719	North-Pole	-	22	22	22.0	12.0	vG								10cm Bino. *28	寺迫(Terasako M)							
3 Night				120 Min.				0	47	47	23.5																		

(表-2) 2020年6月の望遠鏡流星の出現数変化

Table 2 Telescopic Meteors Observational data in June, 2020

● 光度分布

2020年6月の望遠鏡流星の光度分布は、(表-3)に示すとおりです。

	-5.0	-3.0	-2.0	-1.0	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	L-Mag	Total	Avg Mag.
寺迫 (Terasako, M)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4	24	15	0	11.0 - 12.0	47	10.94
Total	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4	24	15	0		47	10.94

(表-3) 2020年6月の望遠鏡流星の光度分布

Table 3 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in June, 2020

寺迫氏から寄せられたコメントを紹介します。

(表-4) 2020年6月の望遠鏡流星の各夜の光度分布 (寺迫氏)

Table 4 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in June,2020(Terasako)

Date(UT)	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	L-Mag	Total	Avg Mag.
15.736						4	8	12.0	12	11.67
26.763					3	10		11.0	13	10.77
28.719	2			2	1	10	7	12.0	22	10.64
Total	2	0	0	2	4	24	15		47	10.94

今月は、梅雨入りし、観測のチャンスに恵まれませんでしたが、昼間、五月晴れの天気でも夜は、薄い雲が流れてきて、視野を塞いでしまいます。このような状況でしたので、自称「ゼニス・クロス」のような広域を観測するのは止め、10cm双眼鏡

による「固定観測」を中心に行いました。15/16は月があるのに関わらず最高の条件でしたが、やはり薄雲の影響で30分で断念しました。26/27は余り視程も良くなく、薄明が押し迫るなか観測を強行し、余り結果を期待しておりませんでした。30分で13個の流星を観測出来ました。

両観測とも30分の観測ですので何とも言えませんが、北方向の観測としては、やや多めの出現かと思えます。

28/29は久しぶりの快晴となり観測に集中できました。明るい流星も含め、HR22.0と極標準的な結果となりました。

● 幹事から

幹事は北極星野の30年以上前に双眼鏡観測を行っていましたが、今の寺迫氏の観測のように数多くの流星を捉えることは少なかったと記憶しています。「微光流星は少ない」という先入観だったのかもしれませんが。

最近木曾観測所のシュミットカメラに設置したCCDで数多くの微光流星が捉えられていることと符合しているかもしれませんが。しかし今は、天候が回復していることを願わずにはられません。(2020年7月28日)